

開催のご挨拶



日本臨床検査専門医会 第2回年次大会長
昭和大学横浜市北部病院 臨床病理診断科 木村 聡

当会は臨床検査の専門医が集い、新技術や検査室運営のノウハウを直伝する「ギルドの会」として1983年5月に発足しました。名称は任意団体『臨床検査医会』でしたが、2022年に「一般社団法人 日本臨床検査専門医会」となり、それまで30回にわたり全国各地で開催していた講演会を、年次大会として定期開催する運びとなりました。折しも専門医制度の確立とともに、臨床検査専門医は基盤領域の一つとしてメジャーな学問となりました。しかし臨床検査のカバーする範囲は広大なため、本学会は基本的な知識をゼロから本音で学べる会として機能しております。

今年のメインテーマは「Catch up！遺伝子検査」です。近年、急速な発展を遂げた遺伝子検査は、検査医として避けて通れぬ領域となりました。検査方法の選択や結果の解釈、精度管理には検査の専門家、それも臨床を学んだ医師の活躍が期待されています。複雑な専門用語が飛び交う世界で、他科の先生が手を出したがる領域かも知れません。しかし、そこに臨床検査医学発展の糸口があると私は考えます。

一見難しそうに見える理由は生物学の急速な進歩にあります。卑近な例ですが、先生は医学部を受験された際、理科の選択科目は何だったのでしょうか？ 得点のし易さから「生物」でなく「物理・化学」を選択された先生が多いと聞いています。そこで今回は、高校レベルの生物学から説き起こし、医療の最前線に至る内容を一步ずつ学べる講演会と致しました。お話は専門医会が誇る精鋭の先生方にご快諾をいただき、終盤には日本病理精度保証機構の鬼島宏教授に検査の精度についてご解説いただきます。

また生涯教育講演会では、検体検査をめぐる法律と問題点を本学会の元会長で現在も医療の最前線でご活躍の佐守友博先生に、米川修先生には地域中核病院での専門医の具体的役割を聖隷浜松病院における20年以上の経験からお話いただきます。

今年は東京の下町、旗の台にある昭和大学での開催となります。東京の下町といえば、「寅さん」に象徴される葛飾柴又界隈が有名ですが、昭和大学のある品川区にも個性的な商店街がいくつも存在し、昼下がりや夕方にかけては結構賑わいます。戸越銀座、武蔵小山、旗の台など、地図を用意しますのでお時間の許す限り町歩きもお楽しみください。

本大会の企画には遺伝子委員会の千葉大学・松下一之、順天堂大学・田部陽子、東京大学・西川真子の各先生のご指導をいただきました。大会の運営にあたっては、東海大学臨床検査科の浅井さとみ、渥美治世、柿添英文、佐伯壽史の各先生よりIT関係のお手伝いをいただいております。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。手作りの学会のため、至らぬ点が多いかと思いますが、2日間の特訓コースが先生の新しいキャリアの糸口となりますよう、運営スタッフ一同、願って止みません。